

第26回全十勝小中学生新聞スクラップコンクール

講 評

豊頃町立豊頃小学校 森田 昌宏

今回の新聞スクラップコンクール「小学生の部」では、1年生から6年生まで合計56点、「中学生の部」では、第1学年108点、第2学年96点、第3学年106点、計310点の応募がありました。コロナ禍において取り組む時間が少なくなっているなか、授業や夏・冬休みなどを活用し一生懸命に取り組んでいる姿が感じられました。たくさんのご応募ありがとうございました。

さて、作品についてですが、継続的に取り組まれたものが多く、2冊以上の作品が多数見られました。その努力に敬意を表します。最初に取り組んでいたものよりも、後半になるにつれて、要約する力がついてまとめ方が上手になったり、新聞を貼るレイアウトや見出しを工夫しわかりやすくなったりと、成長を感じることができました。また、どの作品も楽しんで取り組んでいる様子がかがえ、審査に大変苦労しました。

「小学生の部」では、低学年では、要約は自分の言葉で短くまとめ、感想では自分の思ったことを素直に書かれていました。記事に関係するイラストを描くなど、楽しんで取り組んでいる作品が見られました。中学年では、記事の大事なところにサイドラインを引いて要約し、感想をまとめている作品が多く見られました。見出しもペンや色鉛筆を使うなど、工夫が良かったです。高学年では、記事に出てきた言葉を調べたり、内容で気になったことを自分でより詳しく調べて、見出しを工夫したり、絵を付け加えながらまとめている作品もあり、自ら進んで発展的な学習に取り組む様子が見られました。

「中学生の部」では1年生では、記事をよく読み込んでいて、しっかりとした感想が書かれている中学生らしい作品が多くありました。2年生では、1年生での経験を活かし、昨年度よりもレベルアップした作品が多くみられました。特に、自分でレイアウトや見出しを工夫した作品がたくさんありました。3年生では、SDGsをテーマに様々な新聞記事から関連するものを集めている作品がとても好感がもてました。

今後は記事に対する感想に力を入れてみましょう。記事を読み込んで、どうしてそう考えたのかを明確に書くようにすると、読んでいる人が共感をもつことができます。

新聞スクラップをする上で一番大切なことは、新聞記事から必要な情報を読み取り、それに対して自分の考えを分かりやすく書くことです。また、読み取った情報をまとめる(要約する)こともできると思います。さらに、新聞の中で気になった事柄や言葉などについて調べてみたり、そこから違う記事へ広げたりすると、内容がぐっと濃くなります。

子どもの読解力の低下が危惧されています。新聞を読むことは、その課題を解決するための一つの方法になるかもしれません。新聞は、今その時の社会の話題がぎゅっと詰まっているだけでなく、正確な情報や言葉でつくられている、とても優れた読み物です。ぜひ身近に新聞を置いて、ページをめくってみてください。気になった記事を、切り取って集めてみてください。きっとあなたも、スクラップしてみたくなることでしょう。

最後に、コメントを丁寧に書かれるなど指導していただいた先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。